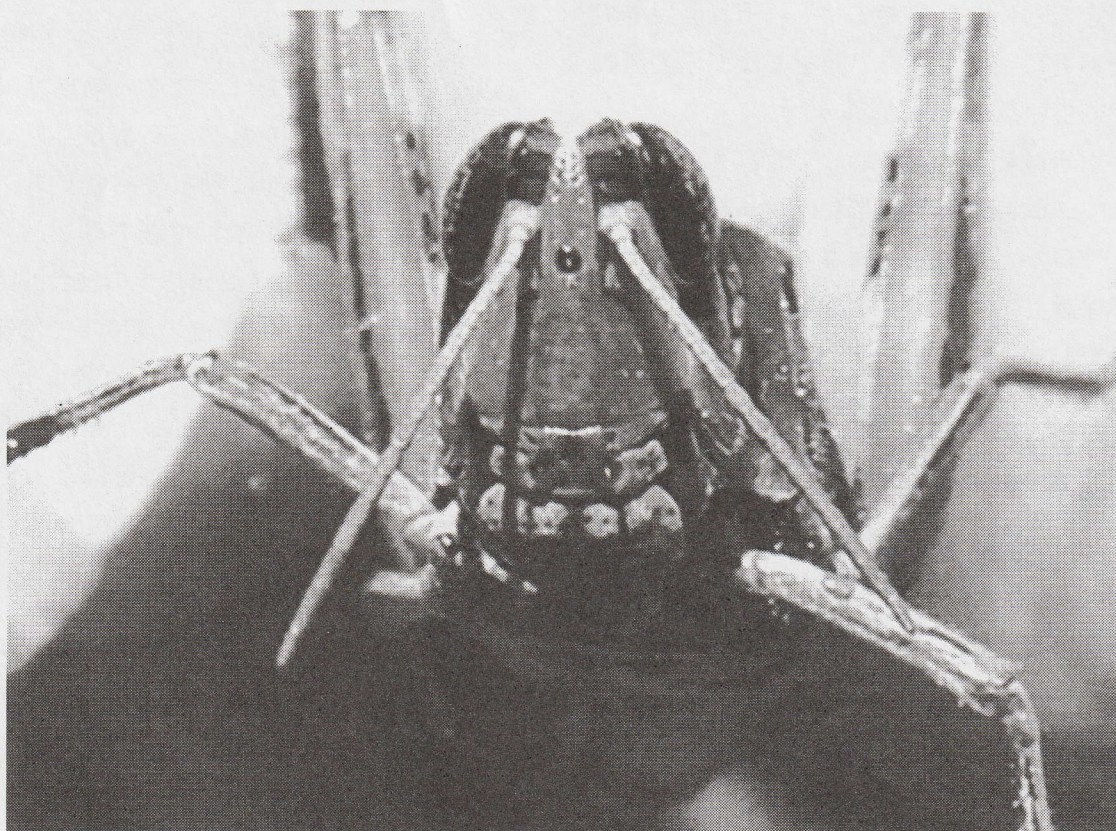


協議会ニュース

No. **168**

2020.12



Contents

- 2 コロナ禍における自然観察会の手引き
- 3 コロナ禍における自然観察会の手引き
- 4 生物(植物)分類・生態研修会報告(11/7)
- 5 研修報告(10/31)
- 6 虫の図鑑いろいろ
- 7 大高緑地の湿地(湿地シリーズ)
- 8 保険制度について(保険担当理事より)
- 9 三河のレジェンド二人逝く
- 10 HPの変更について/行事案内/編集部から

尾張支部	山田 博一
尾張支部	山田 博一
名古屋支部	安井 弘
名古屋支部	小笠原芳夫
名古屋支部	山田 千宏
名古屋支部	大主 順一
名古屋支部	新山 雅一
東三河支部	中西 正
事務局	石原 則義

今号の表紙

馬ずらかな?
マダラバッタ

石原 則義 (名古屋支部)
生き物のアップの写真大募集中!

コロナ禍における自然観察会の 手引き（ガイドライン）

公益財団法人日本自然保護協会 2020 年 8 月 3 日発行

はじめに

本手引きは、全国の自然観察指導員にむけて、コロナ禍において自然観察会を行う際の感染予防対策をまとめたものです。それぞれの現場でこれを参考にして、感染予防をしながらの活動に役立てていただければ幸いです。

本手引きは社会状況に応じて改訂することがあります。改訂した際は当会のウェブサイトに掲載するほか、自然観察指導員の皆様には会報『自然保護』、メールマガジン「しどういん徒然草」等でお知らせします。

1. 自然観察会における感染予防対策の基本的な考え方

（1）感染予防対策はリスクマネジメントの一環です

自然観察会（以下、観察会という）での新型コロナウイルス（以下、コロナという）の感染予防対策は、野外でのリスクマネジメントの一環です。感染リスクの高いプログラムの回避や観察会自体の中止によるリスクの回避、予防対策を講じたリスクの低減、感染者が発生した場合を想定した被害の最小化などに取り組むことが大切です。

（2）参加者とスタッフにはリスクの存在を事前に伝える

観察会の参加者とスタッフにはあらかじめリスクの存在を伝えましょう。高齢者や基礎疾患を有する方は重症化するリスクが高くなり、特に 70 代以上でリスクが高まることが知られています。2 歳以上の子どもはコロナに罹患しても軽症や無症状例が多いとされているものの、コロナにかかりにくいわけではありません。

（3）スタッフはコロナの感染経路を理解しておく

コロナの主な感染経路は飛沫感染と接触感染だと言われています。飛沫感染対策としては互いに社会的距離を保つことと、マスクの着用により飛沫を人に浴びせないようにすることが大切です。マスクの着用は、無症状の罹患者が感染を広げる場合も多いことから、流行が見られる地域では有効な対策となります。一方で、自身への感染予防という面ではマスクの効果は限定的です。また熱中症のリスクが高まることや、幼い子どもはかえって顔に触って感染リスクを高めてしまうといったことも考慮することが必要です。厚生労働省では、2 m 以上の社会的距離が保てる場合には、高温・多湿の環境下では熱中症予防のためにマスクをはずすようにします。

接触感染は、飛沫が付着した身体や物品を触れた手で口や鼻、目を触ることによって起きます。そのため、手洗いや接触頻度の高い部分の消毒が有効な対策となります。

2. 感染予防対策と運営の工夫

ここでは基本的な感染予防対策を整理しました。各地域の状況に合わせて対策を講じてください。

（1）小さな自然観察会のすすめ

1 人のスタッフが多数の参加者を対象に行う観察会は密接・密集しやすく、また緊急時の連絡も大変です。そこでコロナ禍の状況においては、スタッフ 1 人あたりがごく少人数の参加者を対象にする小さな自然観察会をおすすめします。少人数に分かれると、感染拡大も生じにくい。

（2）観察会の準備段階での対策

- ① 緊急事態宣言が出ている地域や、自治体の自粛要請の内容に活動が該当する地域では、観察会は中止しましょう。なお、各自治体では自粛要請のステージやステップを設けるところが多くありますので、自治体の情報を確認して、参加者の定員に上限を設けましょう。

- ① スタッフだけの下見や打ち合わせの時も、密接・密集を避けましょう。
- ② 観察会当日に参加者が密集しないように、自然観察の題材にできる対象物をたくさん見つけておきましょう。
- ③ 手洗いでできる場所や石鹸の有無を下見において確認しておきましょう。

(3) 参加募集段階の対策

- ① 急な開催中止や感染者が出た際の連絡にそなえ、参加者全員の氏名と連絡先を把握します。
- ② 緊急事態宣言が出された地域からの参加は、丁重にお断りしましょう。
開催1週間前以降に発熱している方や、長引く風邪症状・倦怠感があるなど体調に異常を感じる方には、参加をお断りしましょう。
コロナの感染リスクと、プログラムの中止・変更の可能性を事前に告知しておきましょう。

(文例：自然観察会では自然を深く観察するため、自然物に触ったり、参加者同士で話したりします。可能な限りの感染予防策は取りますが、コロナの感染リスクはゼロではないことを事前にご理解の上、年齢や体調、持病などを考慮してご自身で参加を判断してください。当日は感染拡大の状況によってプログラムの中止・変更を行うことがあります。)

(4) 観察会中の対策

- ① スタッフから参加者へ説明を行う際には、飛沫感染を防ぐため、十分な距離を確保し、マスクを着用しましょう。ただし夏季は熱中症のリスクもあるため、十分な距離が保てる場合はマスクの着用は必須ではありません。
- ② 各自が最低1m以上の距離を取れるようにしましょう。小さなものに近寄って観

察する際は順番に見るようにします。難しい場合には、マスクを着用いただきましょう。

- ③ 参加者間での道具の共有や同じ自然物を触る行為は避けましょう。道具の共有が避けられない場合は使用前後にアルコール消毒しましょう。特に目に近づけるルーペや双眼鏡・顕微鏡などは、使用者が変わる都度十分に消毒しましょう。
- ④ マスクを着けていては難しい観察(例：頬や唇の感覚を活かして観察する、においをかぐ、自然物を味わう、ゆったりと自然の風を吸い込む)を行う際は、参加者間の距離を最低1m以上保ったうえでマスクを外してよいことを伝えましょう。
- ⑤ 終了後に手洗い・消毒を徹底し、それまでは手で口や目を触らないようにしましょう。

(5) 開催後の対策

- ① 開催後1週間以内に体調に異変があれば報告していただきましょう。
- ② 参加者やスタッフにコロナへの感染が判明した場合は、保健所に報告し、指導された対応を取りましょう。

3. ウェブサイトへのリンク

自然観察会の実施において、特に有益な情報を以下に掲載しました。参考にしてください。

(1) コロナについての基礎知識と、各事業者で講じられるべき感染予防対策について

・厚生労働省「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000633501.pdf>

・厚生労働省「新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーボード、専門家会議の見解等」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00093.html

2020 年度研修会が 11 月 7 日(土) 日本特殊陶業市民会館にて開催されました。講師は名古屋大学博物館准教授の西田佐知子氏、演目は「植物学の歴史をたどる—伊藤圭介とボタニカルアート」で、参加者は 31 名でした。

☆ 進化する?! 植物学が生まれた

プリニウス (22/23~79 年) の著書「博物誌」から植物学が始まったが、伝説の怪植物や怪人なども記され、当時の情報網の限界がうかがえる。

時が経つに連れて交流も盛んになり、事物・事象も増え、薬や香辛料・食料となる植物、珍しい生物、鉱物など世界の自然を知る博物学(記録する・伝える・売る)が生まれた。さらに、大航海時代(15 世紀半ば~17 世紀半ば)を迎え、事物・事象の膨大な情報や文献の増加にともない、それらの理解、習得が難しくなってきた。

そこで植物の分野では、ひとつひとつの種が

① どのグループに入るか(分類) ② グループ間の関係は?(体系化) ③ 名前を付ける(命名)などが行われるようになってきた。そこで、「分類学の父」：リンネ(1707~1778 年)が登場する。彼は種名を属名+種小名で表す二名法を提唱、さらに植物を雄しべの数などで 24 群に分類する「自然の体系」を出版した。

ダーウィンによって「種の起源」(1859 年)が表され、進化論が登場すると、どのグループからどのグループが分かれていったかを表す、いわゆる系統分類(進化史)が重視されるようになり、いくつかの分類法が提唱された。ところが、研究者それぞれの分類における着眼点が異なるため、それが欠点として表れてきた。

現在の分類法 (APG 分類) はその点を克服するため、誰が行っても同じ結果が出るはずの遺伝子の配列 (DNA 配列) を基として研究が進められている。結果として、従来の双子葉植物と単子葉植物の 2 大分類が出来なくなる等の結論を生み出している。

☆ ボタニカルアートも同時に進化!

博物学が盛んになるにつれて、より正確な情報を伝えるために、現物の標本や写真が用いられるようになった。しかしながらこの二つの方法は、数が限られ、高価であることの問題があった。

ボタニカルアートは、写真より安価で、写真では表現できない細かい部分の特徴の強調・描写もでき、何枚も印刷できる有用性と魅力がある。博物学だけでなく、西欧での園芸文化の発達に伴いボタニカルアートの表現も完成へと進んでいる。

☆ 東洋の植物学はどうなった?

中国で生まれた本草学(植物を中心に動物・鉱物を含む薬学)はそのまま有用性を重視した形で日本に伝わり、発達した。江戸時代(1603 年~)に花開き、それぞれの知識や画力では西欧に引けは取っていなかったが、西欧の『神は何かを意図されて作った』との考え方がなかったためか、分類学には進まなかった。

☆ 雄しべ・雌しべの呼び方は誰が作った?

伊藤圭介(1803~1901 年)は江戸末期~明治の本草学者で現在の名古屋で生まれた。本草学者の水谷豊文に師事。25 才で博物学者のシーボルトがいる長崎に渡り、彼から植物学を学ぶ。別れの際にシーボルトから貰ったツェンペリー著「フロラヤポニカ(日本植物誌)」を翻訳し 27 才の時「泰西本草名疏」(1829 年)として発表した。雄しべ・雌しべなどの名前を作り、西洋の分類体系を紹介し、日本の植物学に大きな貢献をした。

伊藤圭介はそののち東京大学教授となり、明治 21(1888)年に日本初の理学博士となった。など、分かり易く話されました。

研修会の様子



中宇利丸山付近の地質と秋の山野草観察研修会の報告

名古屋支部 小笠原 芳夫

日 時：2020 年 10 月 31 日（土）

場 所：愛知県新城市中宇利 及び桜淵公園

参加人員：15 名

この秋一番の冷え込みとなった晴天のもと、いつもより少し遅い 8 時半に地下鉄本郷駅前に集合。新型コロナウイルス禍が終息していないため、全員マスク姿での参加となりました。車 4 台に分乗し、東名高速道路を経由。最後は狭い農道を走行し、「世界の桜の園」駐車場に到着です。

まずは付近の植物観察です。まわりの土手にはサワヒヨドリ、ツリガネニンジン、ヤマラッキョウ、ヤマハッカやシモツケ等が紫やピンクに咲いていて、それぞれ写真を撮ったりルーペで見たり、じっくりと観察できました。

秋の花を堪能してから、急な山道を登り開けた所が、今回最初の観察対象の蛇紋岩地帯の露頭見学地です。



蛇紋岩地帯露頭の見学

この場所は、黒い岩と石がゴロゴロして、ところどころに痩せた木や草が点在しています。あちらこちらにウンヌケが株をつっており、出発前に頂いた資料にある通りの、マツムシソウと少し小さく見えるミカワマツムシソウ、ムラサキセンブリ、ヤナギノギク等の特徴的な植物をじっくりと観察できました。但し、植物の名前は聞いて

もすぐに忘れてしまうため、すべて「これは？」と聞いて教えていただいたものです。帰宅して撮影した写真と、メモした名前とを確認するのに苦労しました。



笹をかき分けて

ここからは腰まである笹をかき分けながら登っていき、湿地を見学しました。湿地には直径 5 メートルほどの池があり、周りは草原ですぐ後ろは森になっています。池の中にはイモリが多数いて、カエルが水面を横切っていました。まわりをトンボが飛んでいて、図鑑を持った方が調べるとリスアカネとオオアオイトトンボでした。こんな小さな池でも森と草原があればたくさんの生きものがいるものだと感じました。



東屋からの景色

次は少し下って、東屋のある見晴らしの良いところで遅めの昼食をとり、緑色の滑りやすい、ここぞ蛇紋岩という散策路を下り、最後に「この辺りにしかない」といわれたエンシュウハグマの白い花の群落に見送られ、また車で桜淵公園に向かいました。

桜淵公園では中央構造線の東と西での岩の違う崖と景観をじっくりと見学することができると、たくさんの植物と地形を堪能した観察研修でした。

スマホの普及により、図鑑というものの依存は幾分減ったような気もしますが、それでも図鑑ならではの役割やメリットはまだまだ侮れないものがあります。

持ち運ぶのか、自宅で調べるのかにより選択の仕方は変わりますが、今回は少し特徴のあるものを紹介したいと思います。

近年は、全体として従来の標本的写真による図鑑から、生態写真や白バックにより生きた状態で見える図鑑が増えてきました。野外ではいつも最良の状態で見ることができるとは限らず、このような図鑑が重宝することは多くあります。それでも、植物の世界では、いわゆる『牧野』が今も参照されています。これはイラストによって見るべきポイントがきちんと示され、「この写真では見えない！」とはならないからです。昆虫図鑑でこれにあたるのが、『原色昆虫図鑑Ⅰ&Ⅱ』（北隆館）です。イラストによって約2400種が収録され、ハエ目が充実しているのも特徴です。但し、価格が2冊で約1万円とハンディサイズの割に高いのが欠点です。

次にテーマ性で見てみましょう。以前研修会で紹介したのが、『虫のしわざ観察ガイド』（文一総合出版）です。虫はいつも見つかるわけではないという前提から、食べ跡などの虫がいた痕跡から推理するという図鑑というか、観察ガイド本です。それから居場所に注目したものがあります。一つは、順当に食草などに注目したものです。『庭・畑の昆虫』『野山の昆虫』（小学館）が収録数、わかりやすさで一番だと思います。どうやら新本では出ていないようですので、ネットで探す価値があるかと思います。

昨年、『手すりの虫観察ガイド』（文一総合出版）という本が出ました。題名通り、

手すりに来る虫に注目したものです。写真も良質で、観察ガイドとしてかなり役に立つのではないかと思います。

次は地方出版物です。地方出版とはいっても実際には全国の書店で流通し、内容も他の地方でも役立つものになっています。代表的なものが『札幌の昆虫』（北海道大学出版会）です。収録種数が多く、ヒラタアブの仲間の違いなどの識別ポイントの解説やマイナー種の記載が多いことなど、なかなかの内容です。北海道では『北海道の蝶と蛾』（北海道出版社）も充実した内容です。それから、『見つけよう信州の昆虫たち』（信濃毎日新聞社）です。『札幌の昆虫』と同じく標本写真が中心で一部生態写真が混じりますが、生態についての写真付き解説が多いのが特徴です。あと、『昆虫の図鑑 採集と標本の作り方』（南方新社）は、書名ではわかりませんが中身は九州の昆虫図鑑です。なぜかバッタ類のみ生態写真で、他は標本写真なのですが、その標本が少しくたびれた感じなのが残念。それでも、割にマイナーな種が載っていることもあり重宝しています。この他にも、茨城県や高尾山といったものがありますが、改めて必要というほどのものではないと思います。ただ、これらはすべて分布域に注意して使うことは当然です。

おまけですが、築地書館から出ている『野の花散歩図鑑』など長谷川哲雄のシリーズは、彩色画による植物図鑑というものの、時折描かれる昆虫の絵は秀逸なものです。虫に興味がある方でも、是非御一読を。

以上、スペースに限りがあるため、大変簡略ですがハンディーなものを紹介しました。機会があれば、更なる図鑑の森にご招待したいと思います。



大高緑地の湿地(湿地シリーズ)

名古屋支部 大高緑地湿地の会 大主 順一

【設立の目的と経緯】

大高緑地湿地の会は、湿地復元活動を行う前は、毎月1回大高緑地を半日かけて、鳥や植物等の観察会を行っていた。その活動の中で、花木園が猛暑・少雨の夏でも水がコンコンと湧き出ている事と水がしみ出しているところに東海地方固有の植物トウカイコモウセンゴケやシラタマホシクサが生えていた事で、この水を利用して消滅しつつある湿地を復元して、そこに生息する植物や昆虫を増やせないかと考えたのが活動のきっかけである。

活動は2000年に大高緑地を管理している愛知県に湿地復元活動の趣旨説明や許可を得る話し合いを行い、2002年に県から許可が下り、2003年から活動に入った。

【活動概要】

活動は、毎月第二日曜日9時から12時で、「東海の湿地植物と生き物たくさん」をテーマに、作業の優先順位を

- ① 湿地植物の維持・拡大
- ② 湿地植物以外の維持・拡大
- ③ 冬鳥の餌場の維持

とし、当該地を5区域に分けて、優先順位に沿った年間活動スケジュールを作成し、活動を行っている。

【具体的な活動と結果(上記①と③のみ)】

トウカイコモウセンゴケは、花が咲いてから種が出来るまでは放置し、10月～4月に十分な日光が当たるようにするための草刈りと貧栄養状態を保つための落葉掻きを行っている。草刈りは草丈が20ミリ以内と特に短く刈り込んでいる。2015年の調査では、約2,000株の生育が確認できた。

場所を、「コモウセンゴケの丘」と呼称して、林縁に接するように東西に延びる帯状の丘に湧水湿地が点在している。細かく分



▲草刈り・落葉掻き風景。仲間募集中！

けると3群落あり、作業の都合上、方角で命名して「戌亥の丘」「子の丘」「丑寅の丘」と分けている。全体的には株数は増えているが、「丑寅の丘」は減少傾向にあったので、2018年12月に粘土層に到達するまでの表土はがしと種まきをしたところ、2019年7月には芽が出て、現在増殖中である。

シラタマホシクサは、「シラタマホシクサ自生地」と呼称しているところに群落を形成し、4～5月に草丈30～50ミリの間で刈るようにしている。11月には、シラタマホシクサの草刈りと同時に種取り・種まきを行っている。その結果、大群落を形成するようになり、毎年多くの人が写真撮影に訪れる場所になったことは、公園管理の上でも結果が出て来たことを示している。

冬鳥の餌場は、4～5月に草刈りをした後は、特に管理をせず放置している。その結果、オオアレチノギクやセイタカアワダチソウ等の高茎草本が繁茂してブッシュになり、たくさんの種子を付けて、ルリビタキ、ベニマシコ等23種類を確認している。

【まとめ】

当該地は、湧水湿地、林縁、池、水田状の湿地等多様な環境があり、それを生かした管理・活動で、テーマの「東海の湿地植物と生き物たくさん」の実現に向けて、これからも取り組んで行こうと考えている。

保険制度について（保険担当理事より）

名古屋支部 新山 雅一

自然観察会の会場では、ある程度の危険は残っているので、そこが危険ということに参加者に事前に知らせておかななくてはなりません。過度に誇張すると自然観察会そのものが怖い印象を与えてしまい、簡単に済ませるときちゃんと認識せず事故に結ぶつく可能性があり、少し難しいのですが事実を正確に伝えることが大切です。ただ伝えるだけでなくどうやってその危険から身を守るかも教えましょう。事故が起きた時に、指導員が右往左往しては事故が事故を誘発してしまうので、指導員の間で役割分担や連絡網を打合せしておくことも大切です。事故が起きて怪我人が出た時の救急処置の方法や、参加者の気分が悪くなった時の知識と技術が必要で、最寄りの消防署などで救急処置のトレーニングを経験しておくことをお勧めします。

愛知県自然観察指導員連絡協議会（以下協議会という）が一般参加者用として加入しているレクリエーション傷害保険の補償内容：死亡・後遺症障害：590 万円、入院保険金日額：5000 円、通院保険金：通院保険日額：4000 円・昨年度より熱中症にも対応。近年の事故事例では、入院せず骨折してギブスをはめていた約 1 カ月程度の期間を入院期間相当と積算して保険金が支給された事例があります。

事故時の自然観察会の責任者が準備する必要書類としては、参加者名簿と自然観察会の案内になります。協議会の会員が開催する自然観察会は保険対象となりますので、臨時の自然観察会を開催される時は事前に保険担当迄連絡をお願いします。但し、宿泊を伴う場合は適用外になります。

続いて N A C S - J 自然観察指導員災害

補償制度について説明します。自然指導員であれば次の補償内容が自動で付帯されています。内容：死亡保険金：590 万円、後遺障害保険金：20 万～500 万、入院保険日額：3500 円、通院保険日額：2000 円、対人賠償：1 名 6000 万（1 事故最大 1 億 2000 万）、対物賠償：1000 万。詳細は N A C S - J のホームページに掲載されていますので、確認して下さい。

指導員の事故時の対応は、自然観察指導員本人が甲南保険センター：Tel 03-3264-5353 へ連絡して対応することになっています。近年の事故では、自然観察会当日の参加者名簿は必要がなく保険会社から入手した申請資料を N A C S - J へ提出しました。従来の保険金支給事例：自然観察会に向かう途中でクモに咬まれて痛みが出て病院を受診して治療（8,000 円）下見に向かう途中の交通事故で治療（30,000 円）等。

これまで説明した保険の内容について注意事項を列挙します。①自然観察指導員の会費及び協議会の会費が未納になると全ての保険の権利を失うので要注意。②行政や企業などの団体が自然観察会を主催・企画して、観察会の講師として派遣依頼を受けた時に謝金や報酬を受ける場合は、保険制度の適用にならない。③対象事故が発生した時は、概要（事故の日時、場所、原因、状況、被害者の氏名、指導員登録番号、年齢、住所）を即日保険担当に連絡すること。

最後に私自身が今年 6 月の雨の日、自然観察会の斜面で転んで腕を 4 針縫う怪我を体験しました。雨の日は、滑りやすいので細心の注意が必要であると認識しました。

三河のレジェンド二人逝く

東三河支部 中西 正

宮本敬之助さん

2019年12月15日、98歳を目の前にお亡くなりになりました。西三河自然観察会の第2代会長としてご指導を得ました。シダに造詣が深かったのですが、通常はそんなものには目もくれず、自然を大きく見ておられました。常に自然に抱かれるような接し方をしていたのではないのでしょうか。お住まいは知立でしたが、西三河の自然観察会の会場にはいつも自転車であられました。



学生時代は山岳部に属し谷川連峰をフィールドにしていたと思われます。古くからの日本山岳会の会員だったようです。山登りに行く際に直接コメントをもらったことがあります。一つは利尻岳で、山越しをする際、裏側の山頂下には雪が遅くまで残り注意が必要ということでした。もう一つは雨飾山で梶山新湯から乗り越して小谷温泉に降りる際に、尾根から下りのとっつきがきついのことでした。この小谷は毎冬ご家族でスキーに訪れる場所ということで、彼の定宿を紹介して頂きました。

年賀はがきはいつも自筆のスケッチがありました。その年に登られた山の、それはすっきりしたものばかりでした。ご子息からいただいた計報連絡のはがきには、雪の仙の倉山荘の前でくつろぐ敬之助さんがありました。

鈴木友之さん

鈴木友之さんが2020年6月5日89才でお亡くなりになりました。友之さんは愛知県の自然観察指導員講習会の第1回の受講者でした。私は2回目で、こ



の段階で初めて指導員の会を設立するということになりました。立ち上げに際し、会の名前をどうするかということで話し合ったことを思い出します。東三河自然観察会というネーミングはその後の他支部の名前のさきがけになったのではないのでしょうか。

家が近くで、気楽に伺いました。家業の建具屋をしている時はすぐ横にある工場に顔を出しました。玄関前には何か植物が植えてありました。地域のゴミ出し指導などもやっておられたようです。私の家の近くが彼の散歩コースで、緑色の調査かばんを下げた友之さんによく会いました。私の家では「虫のおじさん」で通っていました。補虫網が似合う人で、観察会での昆虫の話はすぐ友之さんをお願いしていました。

行き掛かり上、初代の支部長を引き受けていました。しかし、その座り心地は良くなかったと思われます。時々そんな話をお聞きました。それだからか、支部長は一人の人が長くやるべきでないと考えていたようです。

ホームページの変更について

愛知県自然観察指導員連絡協議会のホームページ <http://anoicm.sakura.ne.jp> を開設しました。

愛知県自然観察指導員連絡協議会 Aichi natural observation instructor communication meeting の頭文字を取りました。会長・事務局・副会長から依頼された原稿を掲載いたします。HP 担当が勝手に作るのではなく、皆さんから頂いた原稿を掲載する役割を担います。指導員の皆さんのホームページなのでよろしくお願いいたします。

HP の問い合わせ先は anoicm@anoicm.sakura.ne.jp です。

HP 担当：山田博一

【行事案内】

区 分	日 時	内 容	実施場所	集合場所	担 当
あいちの 自然観察 会	12 月 12 日 (土) 9:30～12:00	日長神社の紅葉 を愛でよう	知多市 日長神社	産業道路 日長インタ ー東広場 P	知多 細川

<編集後記>

ホームページを変更しました。ご確認ください。

全国各地で 10 月末日から、新型コロナウイルスの感染者が急増しています。ここ愛知県でも例外ではありません。自然観察会における感染予防対策の基本的な考え方。感染予防対策と運営の工夫が必要です。

コロナ禍における自然観察会の手引き（ガイドライン）が公益財団法人日本自然保護協会から 2020 年 8 月 3 日に発行されました。P 2、P 3 参照。本手引きは、全国 of 自然観察指導員にむけて、コロナ禍において自然観察会を行う際の感染予防対策をまとめたものです。それぞれの現場でこれを参考にして、感染予防をしながらの活動に役立てていただければ幸いです。自然観察会においては、ソーシャルディスタンス、マスク着用、アルコール消毒、ペン除菌、ループ消毒を心掛けましょう。

編集スタッフ	石原則義 内海勇夫 岡田雅子 馬場隆之 平山希能
協議会ニュース編集部	石原則義 事務局に同じ

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）事務局 石原則義

〒464-0096 名古屋市千種区下方町 7-3 TEL/FAX : 052-711-3087

E-mail: norimameobata@yahoo.co.jp Web Page: <http://anoicm.sakura.ne.jp>

郵便振替口座：00820-9-6546（名義：愛知県自然観察指導員連絡協議会）